

【配点】⑤ 3・7・8・6 各4点×4＝16点、その他 各2点×42＝84点

① 薬用 ② 飲料 ③ 紀元 ④ 路地 ⑤ 周囲 ⑥ 器官

② ① 千 ② 五 ③ 万 ④ 三 ⑤ 七 ⑥ 九

③ ① えび ② いわし ③ ねぎ ④ だいこん ⑤ もち ⑥ とうふ

④ ① 好 ② 低 ③ 受 ④ 三 ⑤ 落 ⑥ 客

⑤ ① A オ B ウ C エ D ア ② ① ウ ② ア ③ エ ④ イ

③ 人の行動に対する、失礼さや礼儀正しさといった基準。

④ ビジネスの ⑤ ウ ⑥ 今

⑦ 日本人は農耕民族で常に周りの多  
くの人は農耕民族で常に周りの多  
くの人々との関係を重視してきた  
から。

⑧ 文化の違いや共通点が見え、  
よりのよい人間関係を作ることで  
きる。

⑨ イ ⑩ 輪

⑥ ① 飼い主 ② 手術して取れば治る

③ 逃げようとして ④ 鋭 ⑤ ア

⑥ もう助からない病気にかかっているリラに対して何もできない自分の無力さを痛感している。  
(リラに対して何もしてあげられないのに自分を頼っているリラに対して申しわけない気持ち。)

(6 同意可)

(3 同意可)

(7 同意可)

(8 同意可)

① 一般的な用語を多めに出题した。字形を正確に書くことはもちろん、ことばとして知らないものは意味もふくめて確実に覚えておいてもらいたい。③は「期限」や「起源」など、⑥は「気管」や「機関」などの同音異義語をしっかりと使い分けられるようにしておこう。④の「路」のあしへんは「足」とは形が異なるので注意すること。

② 数字をふくむことわざである。意味と結びつけながら覚えていくことが大切である。①は「悪い行いはすぐ世間に知れわたる」ということ。②は「小さく弱いものにもそれ相応の意地があるから侮りがたい」ということ。③は「何が幸で何が不幸か、予測しがたい」ということ。④は「愚かな者も三人集まって相談すれば文殊菩薩のようなよい知恵が出るものだ」ということ。⑤は「人には多かれ少なかれ癖がある」ということ。あとに「あつて四十八くせ」ということばを続けて使うこともある。⑥は「九分通り助からない命がかるうじて助かる」ということ。

③ ①は「少しの物、あるいはわずかな労力によって多くの利益を得る」ということ。②は「いわしの頭のようなつまらないものでも、信仰するとひどくありがたく思える」ということ。③は鴨の肉にネギまで添えてあつて、すぐ鴨鍋ができることから「好都合である」ということ。④は「演技力のない役者、芸のまずい役者をあざけていう語」である。⑤は「役に立たない物事」ということ。⑥は「少しのてごたえもなく、ききめもない」ということ。同意のことばに「ぬかに釘」がある。

④ 三字熟語の反対語である。単なる語句知識ではなく、常識の範囲にも踏み込んだ問題となっている。③「受動的」は「受け身であるさま」。④はなかなかなじみがないかもしれない。「二枚目」は演劇・映画などの美男役。そこから転じて「美男子」という意味もある。三枚目は逆にこっけいな役をする俳優、転じて「こっけいなことを言ったりしたりする人」を指す。⑥は反対語として重要なのでしっかりと覚えておいてもらいたい。

⑤ 前後関係をきちんと考えることが大切である。Cは続きの「も」ということばに注目すれば確定できたはずである。

② 確定させやすい箇所から入れていくことがポイントである。

③ 指示語の基本的な問題。直前の文を指している。記述題なので文末まで考えた上で、正しい意味を表す答えを作ってほしい。

④ 空らの前後のことばに注目する。直後の文が同じような構成の文になっていることに気づけば容易だったのではないだろうか。

⑤ 「売り手―買い手関係」が日本人とフィンランド人とでどのように異なるのかは続きに書かれている。日本人とフィンランド人の対比を読みとろう。イは「冷たい関係しか求めていない」というのが言いすぎだろう。

⑥ 日本では長期的な視点が存在するが、フィンランドには今という一点を重視する姿勢が存在しているのである。

④ の三行後に「農耕民族で常に周りの多くの人々との関係を重視してきたせいか、『皆』を大切にし」とある。この「『皆』を大切にし」という部分が――線⑤と同意と考えれば、直前の内容が理由であるとわかる。ちなみに設問に「筆者が推測している」とあるが、「重視してきたせいか」というところに「推測」が感じられるので、まさにここが答えになる。また、――線⑤と同じ段落の冒頭にある「損得や人間関係においても古い過去から遠い将来まで視野に入れていく」の部分も理由としてはおかしくないのでここを使って答えを書くことも可能である。

⑧ 難問だが、――線⑥のあとの段落からその話題になっていることがわかればそこから読み解いていくという方向性はつかめるだろう。その段落からは少なくとも「違いを発見して驚いたり、意外な共通点に興奮したり」という良い部分は拾うことができる。また本文最後の「ときには文化の違いは大きな誤解につながったり、摩擦の原因になったりもするが」という部分では、文化の違いがマイナスにはたらいたときに「人間関係が悪くなる」ということが示唆されている。ということは逆に「それがうまく作用すれば素晴らしい結果がついてくる」ということは「人間関係がよくなる」あるいは「お互いを引き立て合う」などという結果につながると考えることができるだろう。

⑨ 異文化との接触に対して前向きな気持ちである。「驚いたり」「興奮したり」に合うのは「楽しい」だろう。

⑩ 花は「一輪」である。「本」は細長いものを数える時に使うため、花においても使用できるが、この文脈には合わない。

⑥ ① ――線①には結論や状況を早く知りたいたいという気持ちが表れている。

② 藍は「腫瘍」と聞いても宮崎先生の楽観的な答えを待っていた。それは期待でもあり、勝手に思い込んでいることでもあったのである。

③ 宮崎先生に指摘された後に、藍が自分自身で自分の状況に気づいている。

④ ③とも関連するが、宮崎先生が藍に「逃げようとしている」ことを「悟らせよう」としたときにどのような「まなざし」であったかをさがすと、――線③の直前で「先生の目が、急に鋭くなった」と書かれている。そして藍自身がそれを悟ったからその宮崎先生の「鋭いまなざし」は「消えていた」のである。文章全体を通して宮崎先生が藍に話しかけるときにさまざまな表情や口調になっていることを通読のときにイメージしながら読んでほしい。

⑤ 絶句は言葉を失うぐらい驚いたということ。金銭の問題ではない、と言いつつも、宮崎先生の「一ヶ月一、二回投与で、一回数万円です」ということばを聞いた直後に肩を落としている。

⑥ それまでの流れ、また特に――線⑥の六行前からの内容に注目しよう。単に「リラが死ぬから悲しい」だけでは、ここよりもっと前の時点でリラの死を覚悟しているので説明不足だろう。